

未来へ繋ごう清らかな阿井の 農地と水と環境を！

農地・水・環境向上対策事業



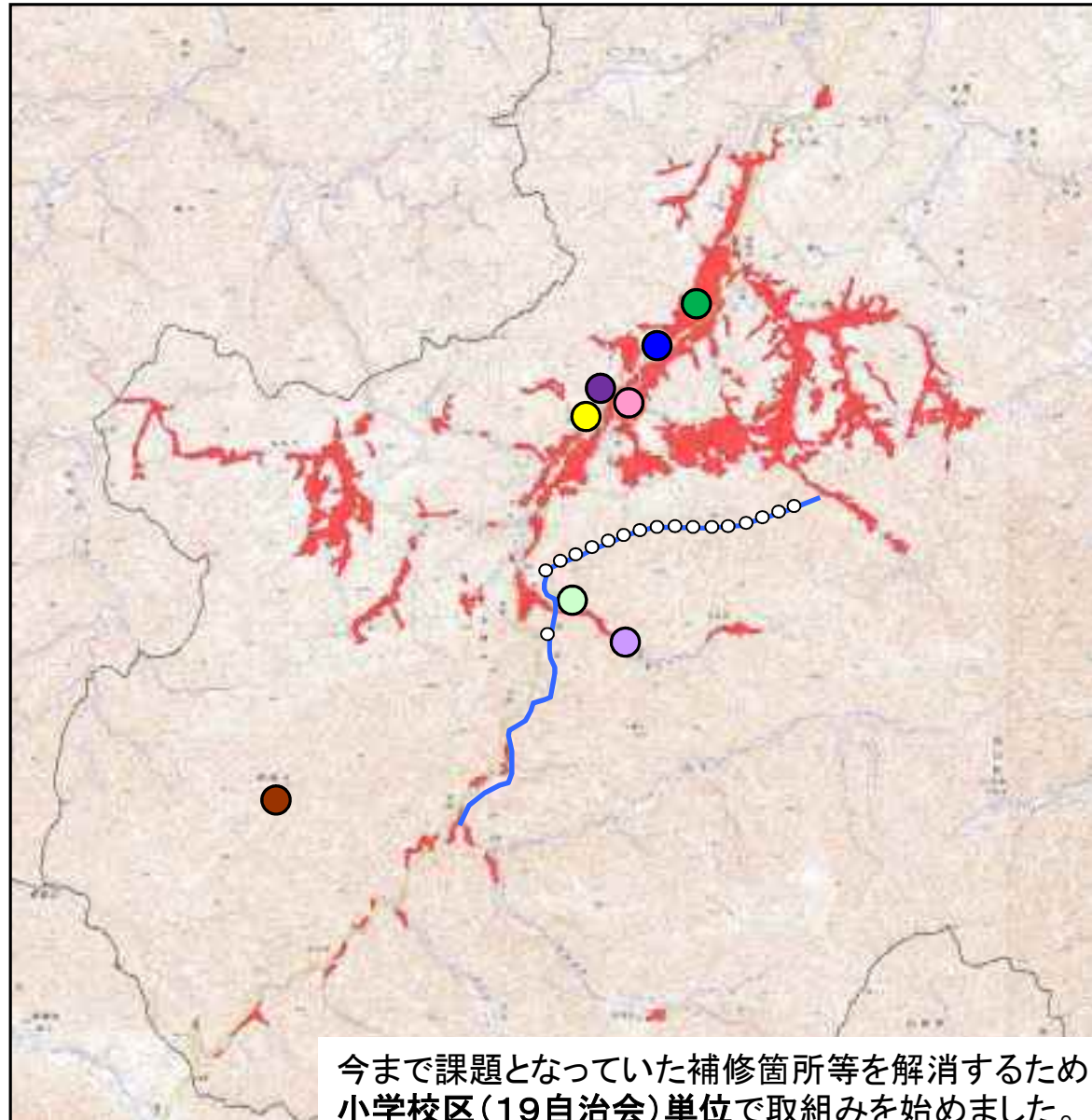
この山は、阿井地区のシンボルである「鯛の巢山」です。

島根県奥出雲町 阿井地区資源保全協議会

阿井地区資源保全協議会の位置と主な活動場所



- …鯛の巣山
- …阿井公民館
- …阿井小学校
- …水路隧道
- …自主施工による災害復旧
- …サイフォン見学
- …田んぼの体験学習
- …コギの里
- …一味同心塾
- …川東水路



参考
島根県庁から阿井公民館まで 約50 km
岡山駅から阿井公民館まで 約180 km
(東城ICより314号線経由)

阿井地区の概要

○農家数は、443世帯の内、268戸（60.5%）であり、専業農家23戸です。

○協定農用地は、田が271.8ha、畑が9.3haで、計281.1haです。

（H21年度 共同活動支援交付金12,222千円）

○営農活動は、水稻のエコ米を2集落で取組み、74.4haの面積です。

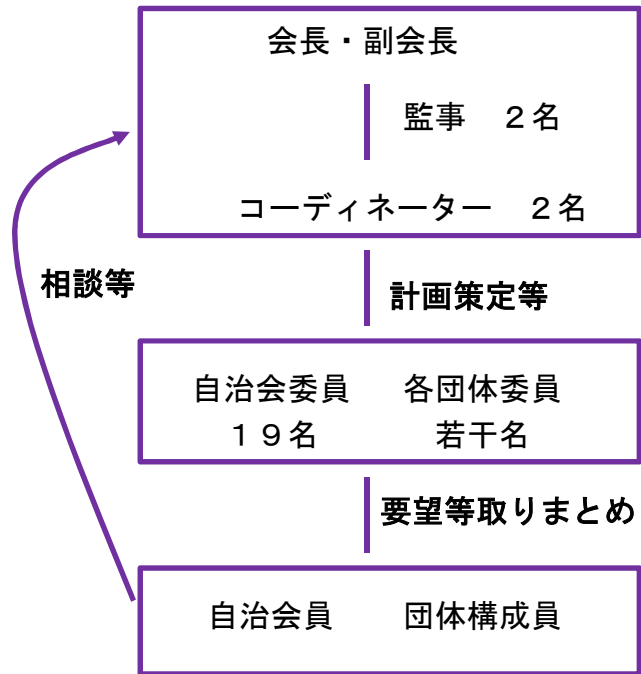
○「仁多米」が本地域の主産業であり、毎年、全国食味鑑定大会で西日本で数少ない「特A」の評価を受けています。

○過疎化・少子高齢化が深刻な問題で、農業を担う年齢は60歳代から70歳代が主力となっていることから、営農組合や農事組合法人等の組織化が進んでいます。



「仁多牛」の堆肥を施用した「仁多米」

活動組織の体制



【コーディネーター（事務局）】
 小学校区単位での活動組織のため、各自治会間の潤滑油となり調整を図るためのコーディネーターが必要でした。そこで、阿井地区全体の活動計画、予算組み、活動のとりまとめ役として地域内から2名を選出しました。
 コーディネーターが毎週火曜日に阿井公民館に駐在することによって、来館される地域の方々と雑談をしながら、相談や今後の活動について話しができる交流の場となっています。

【自治会、団体委員】
 19の自治会や各種団体から、本対策の専門の代表を選出し、地域の取りまとめや活動の中心となっています。また、地域の要望等を役員会に持ち寄り、活動計画の策定をしています。

会長以下、委員は5年間の任期としています。

全戸に配布している「あい水土里のたより」



構成員の年齢構成

本対策事業構成員の年齢構成等

| 構成員 | | 人数 (人) | 平均年齢 (才) | 65歳以上の割合 (人、%) | | 後継者 (人、%) | | |
|------|--------|-----------|-------------|-------------------|-------|--------------|-------|--------|
| 農業者 | 営農組織等 | (法) こよりの里 | 43 | 52.1 | 6 | 14.0% | 43 | 100.0% |
| | | (法) ほり | 19 | 62.5 | 16 | 84.2% | 13 | 68.4% |
| | | 福原営農組合 | 39 | 53.9 | 6 | 15.4% | 28 | 71.8% |
| | | 川小原営農組合 | 12 | 61.8 | 5 | 41.7% | 10 | 83.2% |
| | | 奥湯谷営農組合 | 32 | 61.2 | 13 | 40.6% | 9 | 28.1% |
| | | 小計 | 145 | 56.8 | 46 | 31.7% | 103 | 71.0% |
| | その他農業者 | 123 | 61.2 | 47 | 38.2% | 55 | 44.7% | |
| | 農業者計 | 268 | 58.8 | 93 | 34.7% | 158 | 59.0% | |
| 非農業者 | | 175 | 64.2 | 76 | 43.4% | 49 | 28.0% | |
| 合計 | | 443 | 61.0 | 169 | 38.1% | 207 | 46.7% | |

農業者の後継者が59%と高いのは、営農組織の強化が進んでいるからと、調査して分かりました。



活動が活発になるにつれ、地域の会合も大幅に増えました。

平成19年度からの収支

過去3カ年収支実績

| 項目 | 年度 | 金額(千円) | 年度 | 金額(千円) | 年度 | 金額(千円) | 摘要 |
|----------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|----|
| 共同活動交付金額 | 平成19年 | 12,259 | 平成20年 | 12,246 | 平成21年 | 12,222 | |
| 支出決算額 | 平成19年 | 8,820 | 平成20年 | 15,358 | 平成21年 | 11,991 | |
| 決算残額 | 平成19年 | 3,439 | 平成20年 | 327 | 平成21年 | 558 | |

| | 年度 | 予算額(千円) | 決算額(千円) | 比較(千円) |
|---------|-------|---------|---------|--------|
| 基礎部分の活動 | 平成19年 | 5,811 | 4,416 | △1,395 |
| | 平成20年 | 4,173 | 2,817 | △1,356 |
| | 平成21年 | 2,825 | 3,774 | 949 |

| | 年度 | 予算額(千円) | 決算額(千円) | 比較(千円) |
|----------|-------|---------|---------|--------|
| 農地、水向上活動 | 平成19年 | 4,078 | 2,128 | △1,950 |
| | 平成20年 | 7,844 | 9,397 | 1,553 |
| | 平成21年 | 6,493 | 5,385 | △1,108 |

| | 年度 | 予算額(千円) | 決算額(千円) | 比較(千円) |
|--------|-------|---------|---------|--------|
| 環境向上活動 | 平成19年 | 290 | 355 | 65 |
| | 平成20年 | 1,811 | 1,625 | △186 |
| | 平成21年 | 1,667 | 1,354 | △313 |

| | 年度 | 予算額(千円) | 決算額(千円) | 比較(千円) |
|-------|-------|---------|---------|--------|
| 管理運営費 | 平成19年 | 2,117 | 1,922 | △195 |
| | 平成20年 | 1,872 | 1,521 | △351 |
| | 平成21年 | 1,580 | 1,478 | △102 |

各団体の委員が固定しているため、各構成員に本対策の理解が浸透し、年々、向上活動の要望が増えてきています。

「最も大切な地域資源である農業水利施設を保全・向上活動」

【自主施工による川東水路隧道への塩ビパイプの敷設】

17箇所ある水路隧道を手作業で年間2箇所ずつ計画的に整備をしており、1箇所の整備が終わる度に、阿井地区が一本に繋がっていく思いがします。



『水路隧道の内部を確認』



『塩ビパイプを水路隧道入口へ準備』



『塩ビパイプを水路隧道内部へ導入』

【自主施工による災害復旧】



『今後の災害に備え土水路に製品を布設』



『業者顔負けの仕上がり状況』

農地・水向上活動の実践箇所数

年度別補修箇所数及び金額

| 年度 | 農地補修 | 農道補修 | 水路補修 | ため池補修 | 鳥獣対策 | 計 | 金額(千円) |
|--------|------|------|------|-------|------|----|--------|
| 平成19年度 | 0 | 3 | 9 | 1 | 2 | 15 | 2,128 |
| 平成20年度 | 1 | 0 | 30 | 2 | 2 | 35 | 9,397 |
| 平成21年度 | 4 | 0 | 19 | 0 | 5 | 28 | 5,385 |

構成員である土木従事者の指導のもと、補修は全て自主施工



『畦畔、法面の補修』



『山際の水路にパイプを敷設』



『頭首工の嵩上げ』



『イノシシ対策』

水の大切さを学ぶ体験 ～次世代を担う子供たちの育成～

『コギの里』づくりの学習体験 ～「清らかな水」を地域内外へPR～



人工孵化したコギの稚魚を子供たちと放流をしました。子供たちもきれいな水が大切だと感じていました。



田んぼの体験学習



当初は、子供たちが田んぼの作業は汚れて嫌がると不安がありましたが、喜んで田んぼと触れ合っている場面は昔と変わらないと思います、嬉しく思いました。また、子供たちの感想も聞け、子供たちが主催した収穫祭に招かれたことは、今後の励みとなりました。



サイフォン見学(川東水路施設の見学会)



現地見学では、事前の情報と実際に目にする光景とでは、インパクトが違ったようで、先人たちの苦勞と偉大さを改めて感じているようでした。



地域ぐるみの活動

【基礎部分】・【向上活動】

- 農道の整備
- 各施設の草刈り
- 水路の泥上げ、清掃
- 花壇の整備



農道整備や草刈りに非農家の方が参加するようになりました。また、草刈りは年3回に増えました。



老人会と協力したサルビア等の植栽



P T A と協力して花壇の整備

水稻のエコ栽培の広がり

一味同心塾

「一味同心塾」は阿井地区の旧家を改修して造られた交流館で横浜市の料理家、中村成子先生を館長に「食と農」をテーマとした交流事業の拠点となっています。

1999年にこの地を訪れた中村先生は日本人の暮らしを紡いできた水、米、大豆など「食と農」を通して、郷土と日本という国を見つめ直してみたいと願い、この場を「奥出雲 一味同心塾」と命名されました。現在は阿井地区に棲み、地元農家の応援を得て、三反の田んぼと小さな畑を耕し、自給の暮らしを目指しています。



阿井の「仁多米」

- ミネラル分を豊富に含む水
- 300m～500mの標高が生む昼夜の寒暖差
- 「仁多牛」の堆肥を施用

中村先生に改めて阿井地区の「仁多米」の素晴らしさを地域に気付かせていただき、営農意欲の向上に繋がりました。その向上の変化として、他産地との格差を図るため、エコ栽培の取組みが広がってきています。

最後に . . .

「課題」

- 農地の保全管理
- 水路隧道の整備
- 農道の整備



「将来に向けて」

- 伝統文化の保存・継承
- 農地の集約化、営農組織の強化
- 農地・水・環境向上対策事業の継続実施



未来へ繋ごう清らかな阿井の
農地と水と環境を！